

宝木地区公民館だより



10月25日・26日（土・日）宝木地区文化祭が開催されました。
 たくさんのご来場ありがとうございました。

文化祭実行委員長

尾崎 吉彦

今年度の文化祭は十月二十五、二十六日の二日間の日程で、宝木地区公民館、勤労者体育館を会場に行われました。



当日までは台風など天候が心配でしたが、好天に恵まれホッとした事を思い出します。

芸能発表では、出演された方々の日頃の練習の成果が発揮され、素晴らしい演目が続き、とても楽しく拝見させて頂きました。作品展も、どの作品も出品された方々の努力や個性を感じさせる力作であり、見応えある作品展だったと思います。

また、お昼の振舞いや各種イベント、午後からの講演会や抽

選会、いずれも沢山の方に会場、ご参加頂き、賑やかな文化祭となりました。



皆様にも楽しい一日を過ごして頂けたかと思えます。各委員、各種団体の方々をはじめ沢山の協力ののもと、無事に文化祭を行う事ができました。改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

文化祭に音読

脳はつらつ高教室

山本 寿美子

毎月一回人権福祉センターで認知症予防にシャンシャン体操、生活習慣の振り返り、音読等に取り組んでいます。

今年の文化祭には「音読」と決まり心に残った「柴田ト

ヨさん”の詩を取り上げました。
た。

九十才を過ぎて詠まれた詩には確かな重みを感じられ、読む人聞く人の心に感動を与えてくれます。



聞きに
くかった
との声が
ありまし
た。練習
を重ね機
会があれ
ばまた頑

張ってみたいと思います。

“忘れる”という詩を紹介
します。声を出して読んでみま
しょう。

歳をとるたびに

いろいろなものを忘れてく
るような気がする

人の名前

幾つもの文字
思い出の数々
それを寂しいと思わなくな
ったのは
どうしてだろう

忘れていくことの幸福
忘れていくことのあきらめ
ひぐらしの声が聞こえる

気持ちを楽しにし、心いやされ
る詩です。読まれた柴田さんの
人柄がしのばれます。

おもちゃ病院

(2月で7年目)

松尾 昌和

定年退職後、暇を見つけては
趣味と実益をかねて電子回路
を作ったり電気機器を修理し
たりと楽しく充実した時を過
ごしていました。

そんな折、宝木おもちゃ病院
をスタートしたいと言う話が
あり、これはぴったりの仕事だ
と二つ返事で引き受けたのが
始まりです。

公民館で、三時間程度の修理
では限度が有りますが、直った
時は思わず歓声を上げてしま
います。そして何より傍らで心
配そうに見つめていた子ども
さんのニンマリとした顔がた



まりませ
ん。
この二
つの喜び
が、ここま
で続けて
こられた
と思いま
す。

たまに、入院と言う事で、自
宅で行いますが、家の用事を含
めておもちゃの修理が最優先
ですので、忙しい季節などは大
変です。

電子部品は手持ちで何とか
間に合いますが、ギア・歯車な
どのメカ部品は多種多様でな
かなか手に入らないので、修理
には悪戦苦闘しています。



直って
も又壊れ
ているの
ではない
か気にな
ります。欲
を言えば
修理後の
状況が分かれば安心ですの

ですが……

おもちゃ病院が地域の交流
に少しでも貢献でき、皆さんに
頼られて役に立っているのか
なと思うとドクター冥利につ
きます。

おしまいに、おもちゃ修理を
通して物作りに興味関心を持
ったり、物を大切に作る心が育
めば幸いです。



宝木地区健康ウォークに

参加して

宝木地区健康づくり推進員

濱田 秀夫

毎年十一月三日に開催して
きた健康ウォークですが、気高
町開催のふるさと気高健康ウ
ォークが二日の土曜日開催
されたために、今年は十一月八
日に開催されました。

早いもので、健康ウォークも
開催して九年になります。最初
のころはウォーク開催も少な
く珍しかったのですが、ブーム

に乗って方々で開催されるようになりまして。きっかけになったことは、とても良かったと思います。



平成二十二年
度 県民健康
調査では、
（男性）
6,627
歩（女性）
5,473
歩

と一日の歩数は全国で一番少なく、いかに歩くことに意識がなかったかわかります。

今年は酒津の町を歩きました。宝木地区公民館を出発し、酒津の東昌寺を通り、散策し帰



常夜灯や、切支丹灯笼などがある

ってくるという、約四キロのコースです。東昌寺には「石工川六」作の

り、歩いてみると酒津をいかに知らないか改めて感じました。

参加者は十六名と年々少なくなっていく感じなのが少し残念ですが、雨にもあわず皆さんが、わきあいあいと、有意義な時間を過ごしたと思います。



部落の中で
部落の皆様と一緒に
宝木婦人会
本部 澄

一月、総会を開きました。会員数は、昨年に比べ一名増の十七名です。

日本海新聞「潮流」に、作家松本薫さんが、「青谷原発をくい止めた女性たち」として、私たち宝木婦人会の先輩たちの活動を記しておられます。

「原発のない故郷を」をスロガンに講師を招いての勉強、

署名集め、予定地買い上げ運動などを全県レベルに発展させ、安全神話のまかり通っていた時代に原発をくい止めた先見の明はすごいと。

当時の会長は、小泉澄子さんです。

全国的にも、又、周辺をみても、地域婦人会が存続している事は希少です。

私たちの活動で、
・河内川を考える会主催のグリーンバンク草取りと、清掃作業への参加。

・納涼の夕べの踊り指導と参加
・敬老会には、部落のお年寄り
と逢いたい、そして祝いたいとの思いで参加。

これらはすべて、個人ではなく婦人会として、部落の方々と一緒にとの思いで参加しています。

グリーンバンクの、婦人会が植えた「母さんの樹」は、今や大樹になりました。

婦人会の収入源は、部落からの助成金と年二回の廃品回収など部落の皆さんのご協力を

いただいています。

今の世の中、自身の生き甲斐を満たせる場はどこでもありません。しかし、それで得られない何か・・・。

素晴らしい絆が婦人会の中で、婦人会員の心に芽生える！
『心とこころの和』を大切に、先輩諸姉の志を活動の基盤とし、それに見守られながら活動しています。



花苗販売でコミュニケーション(地区文化祭にて)

はてなクラブ 汽車遠足



☆はてなクラブとは!?

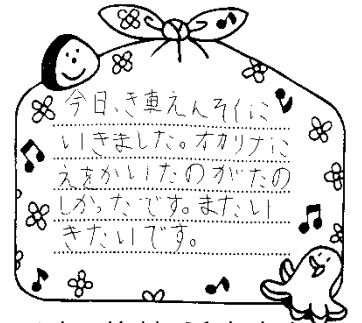
平成24年7月からスタートし、子どもたちで活動内容を話し合い、毎月1回(7・8月はお休み)様々な体験活動を行っています。

今年度は、お菓子作り・いちご摘み・ちまき作り・マーブリング・毛糸でものづくり・クリスマス会・バレンタインチョコ作りなどをしました!



自分で切符を買いました

11月17日(月)のはてなクラブで、「汽車遠足」を行いました。汽車とバスを乗り継ぎ、鳥取砂丘こどもの国へ行きました。砂の工房でミニオカリナ作りをしたり、思い切り遊んだり、楽しいひと時をすごしました。



1年後藤 希歩さん



4年 徳永 萌花さん



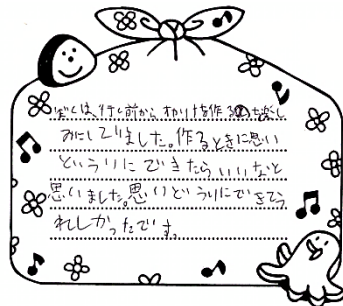
急傾斜のすべり台にドキドキ!



真剣にミニオカリナ作り



オカリナきれいに出来ました



2年 土肥 孔暉さん



おいしいお弁当タイム



宝木地区公民館の電話番号・FAX番号・メールアドレス・ホームページURLのQRコードです。携帯・スマートフォン等で読み取ってご利用下さい。

編集後記

晴れやかな気持ちで迎えた平成27年ですが、あっという間に二ヶ月経ってしまいました。今年は何か自己啓発を始めるぞ、という初詣の決意はどこへやら、気がつくくと漠然と日常が過ぎていってしまいます。最近、気がつくくと何時間でもパソコンの前に座り、だらだら取り止めなくインターネットを眺めています。当然ながら本や雑誌、新聞など活字媒体を読むことが少なくなり、世間の情報のほとんどをネットの画面を通して入手する生活になってしまっています。

でもよく考えてみれば、ありがたがって見ているこれらの情報は、いわば画一化された出来合いの幕の内弁当のようもので、日常生活にはあまり関係ない情報です。実際に我々の生活に必要な生きた情報はどちらかというと地域の濃い人間関係の中とかで静かにやり取りされているものではないでしょうか。

そういう意味で、この『公民館だより』は、時節に沿った地域の皆様の顔が見える貴重な生の声だと思えます。いや、濃い関係自体が喜ばれなくなっている現代では、ますます大切なものになっていると言えるでしょう。御多忙な時期に原稿を寄せて頂いた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

今年度も残り約一ヶ月となりましたが、新たな気持ちで新年度を迎えたいと思います。